

大学生と学ぶ

せんそう
日本が戦争をしていた時のお話

しずおか せんそう こうしゅう
～ 静岡の戦争と空襲 ～



文と絵： ねぎしもえか おかざわはるか
根岸萌香 岡澤晴日

これは、現代の^{げんだい}8月。スーツのお兄さんはお仕事へ、お姉さんたちはこれからお昼ご飯かな？そして、皆さんと同じ小学生の女の子と男の子は終業式が終わって帰るところ



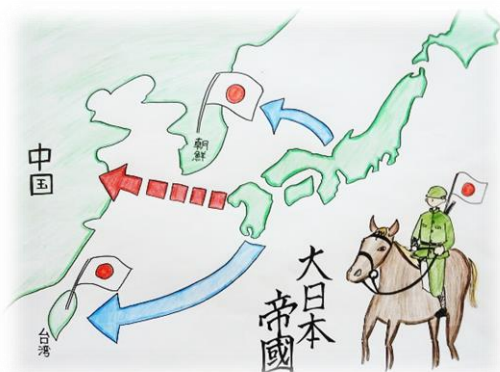
ろかもしれませんね。これから夏休みかな？太陽がキラキラムシムシ暑くて^{せみ}蝉たちも^{だいがっしょう}大合唱。そんな中、^{りん}ヒマワリが1輪^さ咲いています。

今から75年前 1945年の8月。ヒマワリは同じように咲いています。お兄さんお姉さんはどこへ行くのだろう。小学生の2人は何を勉強しに行くのだろう。同じ日本のはずなのに、さっきと様子が^{まったく}全^{ちが}く違いますね。75年前、日本は外国と戦争^{せんそう}をしていました。この時代の人たちが何を考え、どう生きていたのか。「戦争」って何なのか、「平和」って何なのか。



タイムトラベルをして^{いっしょ}一緒に考えていきましょう。

この頃は世界各国で自分の国を強くするために、「他の国を攻めてその国の資源を自分の国のものにする」という動きがより高まった時代でした。日本もそれまでに中国やロシアと戦争をして、今の韓国や北朝鮮のある朝鮮を手に入れました。



「次は中国がほしい！」と思った日本は1937年に、中国に攻め込みました。これが、「日中戦争」という戦争の始まりです。



日中戦争を見ていたアメリカは、これ以上日本が中国を一方的に攻撃し、暴走するのを嫌がったので、やめさせるために中国の味方をしました。

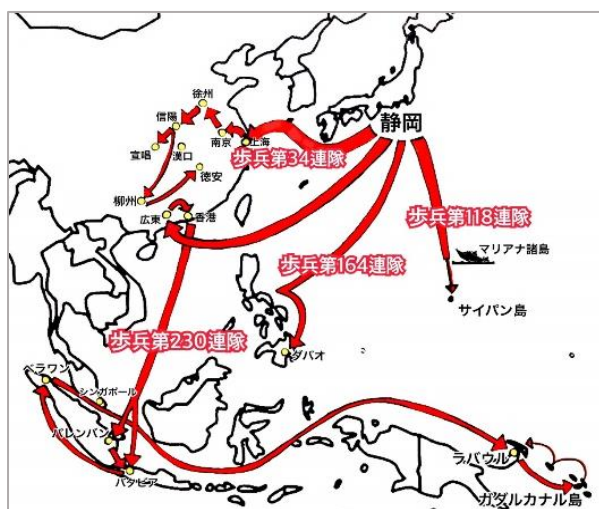
そのため、戦争はどんどん長引き、日本とアメリカの仲もどんどん悪くなっていきました。1941年、日本がアメリカに攻撃をして、「太平洋戦争」が始まりました。

真^{けむり}っ黒な煙^{けむり}がも
くもくとあがって
います。今のハワイ
に^お置かれていたア
メリカ軍^{ぐん}の基地^{きち}に
向けて、日本軍が
こ^{うげき}うげきをした時の様
子です。



日本は戦争を始める合図をアメリカに送らずに、突然^{とつぜん}
こ^{うげき}うげきを仕^{しか}掛ける「奇襲^{きしゅう}」という方^{ほう}法^{ほう}を使いました。このた
め、突然の攻撃^{こうげき}に対して何も準^{じゅん}備^びが出来ず、たくさんのア
メリカ兵^{へい}が亡^なくなりました。

《歩兵第34連隊》



◀ 静岡市街にある
すんぶじょうあと
駿府城跡 には、
りくぐん ほへい だい
陸軍 歩兵 第 34
れんたい
連隊の本部が置
かれていました。こ
の連隊は、地図に
あるように主に中
国大陸に出兵して
いました。

では、当時の日本国内はどんな様子だったのでしょうか？
戦争に勝つためにはたくさんの飛行機や爆弾を作らなければならぬため、国の予算は全て戦争に使いました。その



ため、街中には贅沢を
戒めるポスターや看板
が登場しました。それ
でも、日本が勝つことを信
じて、みんな一生懸命
我慢しました。

服そうは、男の人は軍服に似た服を着て、女の人には着物をズボンのように縫い直した「モンペ」をはいています。
小さい子どもがかぶっているのは「防空頭巾」といって、
空襲の時に空から落ちてくるものから頭を守るための布
でできたヘルメットのようなものです。

食べるものは満足にあり
ませんでした。お米は
貴重品です。そのため、普段
はサツマイモやジャガイモ
でかさを増したおかゆや、
すいとんというお団子を入
れたお汁を飲みました。



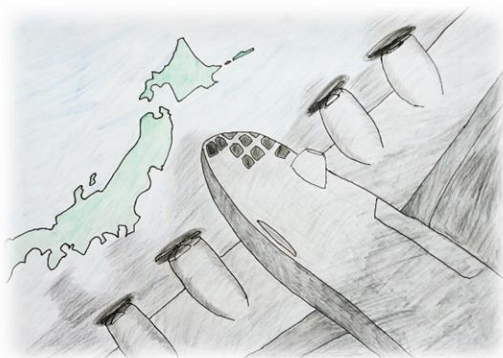
しかし、現実^{げんじつ}はとても厳^{きび}しいものでした。最初^{さいしよ}は順調^{じゅんちょう}に攻^せめ進^{すす}み、たくさんの国々を占領^{せんりょう}していた日本でしたが、大国のアメリカと島国の日本では飛行機に使う鉄^{てつ}の量^{りょう}も、兵士^{へいし}の数^{くわ}も、比^ひべ物^{ぶつ}になりません。資源^{かざん}の限^{かぎ}られた日本は、戦争を続けるほどに強^つくなっていくアメリカに少しづつ追^おい詰^つめられ、徐々^{じょじょ}に撤退^{てつたい}していきました。



新聞には戦場で日本軍が全滅^{ぜんめつ}したことを意味する「玉碎^{ぎよくさい}」の文字が現^{あらわ}れるようになり、「死亡告知書^{しぼうこくちしよ}」と言って、兵士が死亡したことを知らせるたった1枚の紙きれが遺族のもとに届くようになりました。当時の日本では、死ぬことは「お国のため」であり、日本という国を守るために命をかけて戦った人がたくさんいたのです。

1944年7月にサイパン島^{とう}、1945年3月に硫黄島^{いおうとう}がアメリカの手^{わた}に渡りました。

サイパン島をはじめ
とするマリアナの島々
に、アメリカは飛行場を
作りました。そして、今
までよりずっと遠くま
で飛ぶことが出来る
新型の爆撃機「B29」



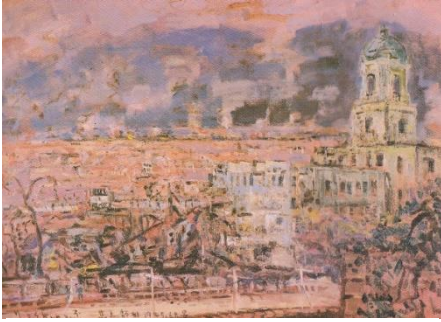
を離陸できるようにしたことで、日本本土に直接爆弾を落
とし、日本の工場や一般市民に被害を与える「空襲」を始
めました。街を焼き払う空襲は1945年3月の東京大空襲
に始まり、大都市から地方都市へと及んでいきました。

《超空の要塞 B29》



◀マリアナ諸島から飛んだ
B29 は、北海道を除く日本
全土を攻撃できるようになり
ました。B29は、地上1万メ
ートル以上の高いところを飛
べるため、地上から爆撃機
を攻撃する「対空砲火」が
届きませんでした。

静岡空襲 1945 年 6 月 20 日



「焼けあと」 吉野不二太郎さん 画

くうしゅう みちか せま
空襲は身近に迫ってき
ました。6 月 20 日、静岡の街も
くうしゅう
大きな空襲を受けて3分
の2が焼け野原になりました。

B29 は、日本から約 2500
km 離れたグアム島から 6 時間
以上をかけて静岡にひらい、

123 機で焼夷弾（市民の住む街全体を焼くことを目的とし
た爆弾）を落としていきました。

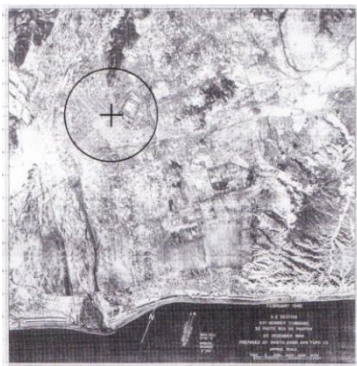
火災は静岡駅周辺から市役所・県庁などの中心部に広が
り、呉服町・鷹匠・水落と、末広・
あんざい ばんちょう ほのお あらし つつ
安西・番町方面も炎の嵐に包ま
れます。0 時 51 分から 2 時 54 分ま
での 2 時間の空襲によって 2 千人
以上が亡くなりました。

くうしゅう
空襲の時には逃げずに火を消さ
なければならなかったのも、多くの
人が消火のために逃げ遅れ、焼死し
ました。



ぼくげき
静岡を爆撃中のアメリカ
ぐんき さつえい
軍機が撮影した写真

私たちが毎年楽しみにしている安倍川の花火大会は静岡
空襲で亡くなった人々の霊をなぐさめるために始められ
たものです。



静岡の攻撃地点を示した地図

しばたようこ 《柴田陽子さん》



柴田陽子さんのモンペとたび

10歳だった柴田陽子さんは逃
げる途中で左足に爆弾の直撃を
受けて安倍川に転げ落ちます。
家族に助けられて日赤病院に運
ばれましたが、「勉強の支度しな
きゃ、明日学校で考査(テスト)
があるから……」の言葉を最後に、
その日の夕方亡くなりました。

しみずくうしゅう

清水空襲 1945 年 7 月 7 日



みなとばし
「港橋の下へ」 鈴木玲之さん 画

清水への空襲も終戦
まぎわ 間際の 8 月まで続きました。

特に大きな被害が出たの
が、7 月 7 日の空襲です。
へいき 兵器を作る工場が集中して
いたことから鉄筋の建物の
多い清水の街を焼くため、

アメリカ軍は強い破壊力をもつ焼夷弾も組み合わせて、静
岡より多くの爆弾を落としました。

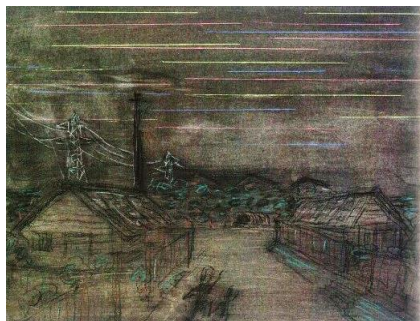
0 時 33 分から 2 時 10 分までの 1 時間半にわたる空襲に
よって清水の街の 5 割が焼け落ち、151 人の命が奪われま
した。炎を避けるため港の海や巴川、港橋や万世橋の
下に逃げこんでおぼれ死んだ人もいます。

静岡に比べて死者の割合が少ないのは、「次は清水の番」
と人々があらかじめ郊外に避難していたことも原因といわ
れています。

また、清水は「艦砲射撃」という攻撃を受けました。艦
砲射撃というのは、7 月 31 日の未明 0 時過ぎに、突然アメ
リカ軍の駆逐艦（軍艦）が砲弾を撃ってきたという恐ろし

いものでした。当時、清水にいた人々は真^まっ暗^{くら}闇^{やみ}の中でどこから撃^うたれているのかも分からずに逃げました。

艦^{かん}砲^{ぽう}射^{しゃ}撃^{げき}によって、たった4分間のうちに44人が亡^なくなりました。



「夜空を切る艦^{かん}砲^{ぽう}射^{しゃ}撃^{げき}の飛^ひ跡^{せき}」
渡^{わた}辺^べ晴^は朗^{らう}さん 画

《宮^{みや}城^ぎ島^{しま}正^{まさ}博^{ひろ}さんのお話》



14 歳、中学 2 年生の夏。B29、133 機による清^{しみ}水^す大^{だい}空^{くう}襲^{しゅう}がありました。7 月 6 日深夜、爆^{ばく}音^{おん}とともにあちこちに火^たの手^なが上^あがり七^な夕^{せき}空^{くう}襲^{しゅう}と呼^よんだ焼^{しょう}夷^い弾^{だん}攻^{こう}撃^{げき}が始^はまりまし

た。
(中^{ちゅう}路^り)

家^けを出^でた私^{わたし}の頭^{あたま}上^{うへ}に、黒^{くろ}光^{くわ}りするB29 の巨^{きょ}体^{たい}がのしかかるように迫^{せま}りました。身^みをかがめながら家^けの横^{よこ}の小路^{こうじ}に出^でる。煙^{けむり}を挟^{はさ}んだ隣^{となり}の家^{いえ}が炎^{えん}に包^{ほう}まれたと思^{おも}ったら一^{いつ}瞬^{しゆん}焼^やけ崩^{くず}れたのでした。体^{てい}が火^ひ照^{てい}る熱^{ねつ}さの中^{なかに}を必^{ひつ}死^しで逃^にげ家^け族^{ぞく}と合^が流^{りゅう}しました。

朝^{あさ}方^{がた}、白^{はく}煙^{えん}のくすぶる中^{なかに}を家^けに戻^{もど}りました。家^けは焼^やけずに台^{だい}所^{しよ}の横^{よこ}に焼^{しょう}夷^い爆^{ばく}弾^{だん}の殻^{から}が突^つき刺^ささっていました。裏^{うら}と東^{ひがし}隣^{どなり}の家^{いえ}も残^{のこ}っていました。が街^{まち}一^{いつ}帯^{たい}、見^み渡^{わた}す限^{かぎ}り焼^やけ野^の原^{はら}でした。

(「銃^{じゅう}後^ごの少^{しょう}国^{こく}民^{みん}と呼^よばれて」抜^{ばつ}粹^{すい})

日本のあちらこちらで空襲が行われ、6月には住民を巻き込んだ悲惨な地上戦の末に沖縄が占領され、アメリカ軍は手の届くところにまで迫っていました。間もなく上陸してくるアメリカ兵と戦うことになるだろうと、日本中でいつでも戦えるよう準備が始められました。

《特攻 ～人が「兵器」と化した作戦～》

戦闘機やボートごと敵方の艦船に体当たりすることで爆発・沈没させて攻撃を特別攻撃(特攻)といいます。長引く戦争によって人も物も不足してきた頃、最終手段として採用された「必ず死ぬ」作戦であり、「十死に零生」と言われました。特攻に行く兵士の多くは若者で、今の高校生くらいの年齢の人もありました。4500 人が戦死したと言われています。1944 年頃から「桜花」、「回天」、そして「震洋」といった特攻専用の兵器開発がさかに行われるようになりました。「震洋」は清水の三保にも出撃基地が作られ、今でも格納庫が保存されています。



◀特攻艇「震洋」の格納庫

「震洋」は、ベニヤ板製のモーターボートに爆薬を積んだもので、海岸の洞窟や格納庫から海上に出て敵艦船に体当たり自爆する特攻艇です。

1945年8月6日に^{ひろしま}広島、9日に^{ながさき}長崎に^{げんしぼくだん}原子爆弾が落とされました。その^{しゅんかん}瞬間、空に^う浮かんだ丸い雲は、とても大きなエネルギーが^{はっさん}一気に発散される時にしか出ない雲で、「きのこ雲」といいます。

原子爆弾は^{いっぱつ}一発で街全体を^や焼き払いました。きのこ雲の^{ました}真下やその近くの温度は3千度以上になったとされています。鉄さえも溶けてしまう高温です。この熱で^{ほね}骨まで届くような深いやけどを負い、それが原因となって多くの人々が亡くなりました。さ

らに、^{ばくふう}爆風で飛ばされてきた建物やガラスの^{はへん}破片が当たって亡くなった人や、人体に^{じんたい}有害な^{ゆうがい}放射線^{ほうしゃせん}をたくさん^あ浴びたことで^{はつけつびょう}白血病にかかり何年も

経ってから亡くなった人もたくさんいました。



原子爆弾による正確な^{ししやすう}死者数は今も分かっていませんが、その年の年末までに広島ではおよそ14万人、長崎ではおよそ7万4千人が亡くなったと考えられています。



広島市の真ん中で静かにたたずむ原爆ドームは、原子爆弾によって被ばくしたことを伝える世界遺産です。世界中で原子爆弾を落とされたのは日本だけです。こ

んなにも酷い結果をもたらした戦争を忘れてはならないと、今も戦争の悲惨さを訴え続けています。

飛行機や戦艦を作る資源もほとんど無くなり、都市が焼けて無くなり、食べるものも無くなり、何よりも必ず勝つと信じていた 310 万人もの国民が亡くなり、もう戦争を続けられないことが決定的となりました。1945 年 8 月 15 日、天皇陛下の「玉音放送」によって終戦が告げられ、長かった戦争は遂に終わりました。国民は前もって「重大放送」があると知らされており、時間になった時にはみんなでラジオの前に集まり、正座をしてこの放送を聴きました。どんな気持ちでこの放送を聴いていたのでしょうか…？



これでお話はおしまいです。

みなさんにとってこのお話は、ずっと昔のことのよう
感じるかもしれませんし、あんまり信じられないような内
容だったかもしれません。それでも、75年前の日本で、間違
いなく本当に起こったことなのです。

毎日普通に学校に行って、毎日お腹いっぱいご飯を食べ
ることが出来て、安心して眠る事ができる。今の私たちが
当たり前に送っている生活が当たり前ではなかった時代が
あって、生きる事すら大変で苦しい思いをした人たちがた
くさんいたということを知っていてほしいと思います。

「平和ってなんだろう?」「今は平和かな?」と、少しで
も考えてもらえたら嬉しいです。



静岡市平和都市宣言

南アルプスから駿河湾へと広がる豊かな自然に恵まれ、長い歴史の中で独自の文化と伝統を育んできた私たちのまち、静岡。この素晴らしいまちで、平和で豊かな暮らしを次の世代に引き継ぐことが、私たち静岡市民の願いである。

もとより、世界平和の実現は人類共通の願いであるが、今なおこの地球上では、戦争やテロリズム等により尊い人命が失われており、核兵器の拡散も懸念されている。

戦後・被爆 60 年の節目を迎えた今日、私たちは、あらためて日本国憲法の掲げる恒久平和の理念のもと、核兵器など大量破壊兵器の廃絶と、世界平和の実現に貢献することを表明し、静岡市が平和都市であることを宣言する。

平成 17 年 12 月 15 日

大学生と学ぶ 日本が戦争をしていた時のお話 ～ 静岡の戦争と空襲 ～

文と絵：根岸萌香（常葉大学）

岡澤晴日（常葉大学）

発行日：2020 年 6 月 20 日

発行：静岡平和資料館をつくる会

〒420-0858

静岡市葵区伝馬町 10-25

中央ビル 90 2 階

TEL・FAX 054-271-9004